

平成26年壱岐市子ども議会 会議録目次

会期日程	1
上程案件及び議決結果一覧	1
第1日（8月12日 火曜日）	
議事日程表（第1号）	3
出席議員及び説明のために出席した者	3
議長挨拶	5
開 会（開議）	6
会議録署名議員の指名	6
会期の決定	6
一般質問	
郷ノ浦中学校 1 番 濱田 誠 議員 2 番 豊島 圭裕 議員	
3 番 山口 幸翼 議員 4 番 前田ひなの 議員 …	7
勝本中学校 5 番 本城 匠 議員 6 番 中村 遼太 議員	
1 1 番 坂口絵理華 議員 1 2 番 山内 雄心 議員 …	1 3
芦辺中学校 7 番 境 ひとみ 議員 8 番 寺田 想 議員	
1 3 番 米田 智愛 議員 1 4 番 長嶋 冴映 議員 …	1 9
石田中学校 9 番 山下 純門 議員 1 0 番 山川 椋太 議員	
1 5 番 安永真里衣 議員 1 6 番 川富 智希 議員 …	2 2
議案の審議（説明、質疑、委員会付託省略、討論、採決）	
発議第1号 壱岐市子ども宣言の決議について	2 8
閉 会	3 0
教育長講評	3 0
市長挨拶	3 1
子ども議員代表謝辞	
勝本中学校 中村 遼太	3 2

平成26年壱岐市子ども議会を、次のとおり開催します。

平成26年 7月31日

壱岐市議会議長 町田 正一

- 1 期 日 平成26年 8月12日 (火)
- 2 場 所 壱岐市議会議場 (壱岐西部開発総合センター 2F)

平成26年壱岐市子ども議会 会期日程

日次	月 日	曜日	会議の種類	摘 要
1	8月12日	火	本会議 (9:25~)	○開会 ○会期の決定 ○一般質問 ○議案の上程、説明 ○議案審議 (質疑、委員会付託省略、討論、採決) ○閉会 ○会議録署名議員の指名

平成26年壱岐市子ども議会 上程案件及び議決結果一覧

番 号	件 名	結 果	
		審査付託	本会議
発議第1号	壱岐市子ども宣言の決議について	省 略	原案のとおり可決 (8/12)

平成26年 壱岐市 こども 議会 会議 録 (第1日)

議事日程 (第1号)

平成26年8月12日 午前9時25分開会 (開議)

日程第1 会議録署名議員の指名

日程第2 会期の決定

日程第3 一般質問

郷ノ浦中学校 1番 濱田 誠 議員

2番 豊島 圭裕 議員

3番 山口 幸翼 議員

4番 前田ひなの 議員

勝本中学校 5番 本城 匠 議員

6番 中村 遼太 議員

11番 坂口絵理華 議員

12番 山内 雄心 議員

芦辺中学校 7番 境 ひとみ 議員

8番 寺田 想 議員

13番 米田 智愛 議員

14番 長嶋 冴映 議員

石田中学校 9番 山下 純門 議員

10番 山川 椋太 議員

15番 安永真里衣 議員

16番 川富 智希 議員

日程第4 発議第1号 壱岐市子ども宣言の決議について

本日の会議に付した事件

(議事日程第1号に同じ)

出席議員 (17名)

1番 濱田 誠君

2番 豊島 圭裕君

3番 山口 幸翼君

4番 前田ひなの君

5番	本城 匠君	6番	中村 遼太君
7番	境 ひとみ君	8番	寺田 想君
9番	山下 純門君	10番	山川 椋太君
11番	坂口絵理華君	12番	山内 雄心君
13番	米田 智愛君	14番	長嶋 冴映君
15番	安永真里衣君	16番	川富 智希君
17番	町田 正一君		

欠席議員（なし）

欠 員（なし）

事務局出席職員職氏名

事務局長	榊崎 文雄君	事務局次長	吉井 弘二君
事務局係長	竹藤 美子君	事務局書記	若宮 廣祐君

説明のため出席した者の職氏名

市長	白川 博一君	副市長	中原 康壽君
教育長	久保田良和君	総務部長	眞鍋 陽晃君
企画振興部長	山本 利文君	市民部長	川原 裕喜君
保健環境部長	斉藤 和秀君	建設部長	原田憲一郎君
農林水産部長	堀江 敬治君	教育次長	米倉 勇次君
消防本部消防長	安永 雅博君	病院部長	左野 健治君
総務課長	久間 博喜君	財政課長	西原 辰也君
会計管理者	土谷 勝君		

午前9時25分開会（開議）

○事務局長（榊崎 文雄君） 皆さん、おはようございます。

本日は、夏休み期間中、そして、お盆前の何かと御多用の中にお集まりをいただきまして、まことにありがとうございます。

これより、平成26年壱岐市子ども議会を開催いたします。

それでは、本子ども議会の主催者であります壱岐市議会町田正一議長より御挨拶をいただきました

と思います。町田議長、よろしくお願いいたします。

〔議長（町田 正一君） 登壇〕

○議長（町田 正一君） おはようございます。市議会を代表して、一言御挨拶を申し上げます。

まず、本会議の開催に当たり御協力いただきました各中学校の校長先生を初め、関係者の皆さんに厚くお礼を申し上げます。

子ども議会は、壱岐市議会が初めてことし取り組みました。このように各中学校の協力を得て、各中学校の代表の皆さんたちが、こうして壱岐市議会の議場に来ていただいて、皆さんの顔を見ることができて本当にうれしく思います。

中学校2年生と3年生がほとんどということなので、少し、地方議会の仕組みを御理解いただきたいと思います。

日本国憲法、それから地方自治法という法律で、地方自治が今日本の国では保障されています。地方自治というのは、自分たちのことはできるだけ自分たちで決めていこうというのが地方自治の仕組みであります。国の仕組みとは少し違います。国は、内閣総理大臣は国会議員の中から選ばれますから、僕たちは内閣総理大臣を直接選挙で選ぶことはできません。でも、地方自治の場合は、市長と地方議員、この壱岐市議会の議員だけが住民の直接選挙によって選ばれます。この仕組みを二代表制と言います。市長と執行部の人は執行機関として予算をつくったり、条例を提案したりします。議会は、議決機関として、その予算が適正に使われているか、あるいはその条例が市民の役に立つかをこの議場で審査します。

ふだん私たちがやっている議会と全く同じく、この議場では、壱岐市の抱える問題、例えば君たちにとっては非常に重要な教育の問題であったり、福祉、医療、それから子育て、産業、人口減少対策等、ここで話し合われます。君たちから出されている質問を見ると、中学校の跡地の利用についてかなり多くの質問が出ておりますが、それについてもここで話し合っていけます。

きょうは、ふだん、議員がやっているように、議員の場合は、1人50分持ち時間があって、市長及び執行部に対して自由に質問することができます。それと全く同じことを君たちには経験してもらいます。これは議会の最も重要な活動の一つであります。

10年後、君たちが25歳になると、市長にも議員にも立候補することができます。議会としては、執行部もそうなのですが、君たちができるだけ島に、この島に誇りを持って残っていただけるように、また、都会に行っても、いつの日か、この島に帰っていただけるように一生懸命壱岐の将来のことを考えております。

きょうは、君たちから出された質問について、前にいる執行部の人たちが誠意を持って答えてくれます。どうか元気よく頑張ってください。

終わります。本日はありがとうございました。

〔議長（町田 正一君） 降壇〕

○事務局長（榊崎 文雄君） それでは、ただいまより子ども議会を開会いたします。

○議長（町田 正一君） おはようございます。

会議に入る前に、御報告いたします。

長崎新聞社ほか4名の方から報道取材のため、撮影機材等の使用の申し出があり、これを許可いたしておりますので、御了承願います。

なお、ふだんの議会と同じように、本日は壱岐ビジョンにおいて生中継をしております。また、後日再放送も予定しております。

ただいまの出席議員は17名であり、定足数に達しております。ただいまから平成26年壱岐市子ども議会を開会します。

これより本日の会議を開きます。

日程第1. 会議録署名議員の指名

○議長（町田 正一君） 日程第1、会議録署名議員の指名を行います。

本会議の会議録署名議員は、会議規則第88条の規定により、1番、濱田誠議員、2番、豊島圭裕議員を指名いたします。

日程第2. 会期の決定

○議長（町田 正一君） 日程第2、会期の決定についてを議題とします。

お諮りします。本会議の会議につきましては、本日1日としたいと思います。御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（町田 正一君） 異議なしと認めます。よって、本会議の会期につきましては、本日1日と決定いたしました。

日程第3. 一般質問

○議長（町田 正一君） 日程第3、一般質問を行います。

あらかじめ申し上げます。一般質問の時間は、質問、答弁を含め20分以内となっております。よろしく申し上げます。

一般質問通告者一覧表の順序によりまして、順次登壇をお願いします。

それでは、質問順位に従い、郷ノ浦中学校、1番、濱田誠議員、2番、豊島圭裕議員、3番、山口幸翼議員、4番、前田ひなの議員の登壇をお願いします。

〔濱田 誠議員、豊島 圭裕議員、山口 幸翼議員、前田ひなの議員 一般質問席 登壇〕

○議員（郷ノ浦中学校） 僕たち郷ノ浦中学校は、壱岐の島の発展について、市ではどのように考えているのか、お聞きしようと思います。そのことについて4つの質問を考えてきました。

まず、1つ目です。6つの中学校が閉校になって4年がたちます。校舎の老朽化が進んだり、グラウンドが荒れたり、とてももったいなく感じます。そんな市内に残っている旧中学校の校舎、体育館、グラウンドなどの設備は今後どのように利用するのですか。

壱岐市の人口について伺います。

壱岐市の人口ですが、6月末で2万8,626人と、平成17年に比べると約2,800人減少しています。ここ数年、400人前後の人口が減っています。このペースで減っていくことを考えると、数十年後には2万人を切ることも予想されます。私たちの壱岐を発展させるために、人口減少を食いとめることは欠かせません。その対策はどのようになっていますか。

壱岐の観光について伺います。

壱岐には毎年多くの観光客が来ています。福岡からの船の便もいいので、日帰りで帰る人も多いと聞いたことがあります。

また、壱岐は小さな島なので、観光するにしても、1日の滞在でほとんど回ってしまえるでしょう。壱岐を活気づける方法の一つは、観光客のリピート率を高めたり、滞在日数を延ばすことだと思います。そのための手段などどのように考えていますか。

空き店舗について質問します。

最近、コンビニエンスストアなどがふえています。その反面、古い店が空き店舗となっているものも多く見られます。郷GOよっこいしょのように空き店舗を利用したスペースはありますが、まだ多くはありません。このような空き店舗の利用についてはどのように考えていますか。

○議長（町田 正一君） 郷ノ浦中学校の質問に対する理事者の答弁を求めます。教育次長。

〔教育次長（米倉 勇次君） 登壇〕

○教育次長（米倉 勇次君） 質問の1番目、旧中学校の残った施設の利用についてお答えをいたします。

平成23年4月の市内中学校統合によりまして、廃校となりました6つの中学校の校舎、体育館、グラウンドなどにつきましては、現在、体育館、グラウンドは、公民館球技大会や少年野球、ソフトボール練習場として、社会体育施設として地域の皆様に開放し利用していただいております。

利用の頻度は各施設によって違いますけれども、新たに手を加えることなく、現在のままで利用いただいております。

校舎につきましては、教室の一部を地域の会議やサークル活動に利用されておりますが、建築

後、かなりの年数が経過をしております、老朽化等によりまして安全性が確保できないものは解体をしなければならないと考えております。利用に耐え得る部分については、企業誘致等に今後活用したいと考えております。このように、利用できるものは今後も活用していきたいと思っておりますし、皆様の提案やアイデアにも期待をいたしております。

〔教育次長（米倉 勇次君） 降壇〕

○議長（町田 正一君） 企画振興部長。

〔企画振興部長（山本 利文君） 登壇〕

○企画振興部長（山本 利文君） おはようございます。それでは、郷ノ浦中学校の皆さんの2つ目の御質問にお答えします。人口減少の問題です。

皆さんもことしの5月に報告されました消滅可能都市、このニュースはショッキングだったと思います。これは、2010年から2040年までの間に、二十歳から39歳の女性の人口が5割以下に減少する可能性がある自治体をそう呼んでます。

壱岐市の場合は、61.5%の減少で、壱岐市も消滅可能性都市というふうに推測をされています。

人口減少を食いとめるために、これまで壱岐市としましては、企業誘致によって働く場所をつくったり、観光振興によって交流人口の拡大を図ったりしておりますが、減少に歯どめがかかってないのが現状です。

現在、国では、安倍総理によりまして、「まち・ひと・しごと創成対策本部」というのを設置するように指示がっております。地方における人口減少や高齢化の対応を進めるために準備本部が設置されました。

また、県でも、市町と連携した対策会議、これをこの秋に始動するという事で進められております。

そのような中、壱岐市におきましても、学識経験者、そして農業、漁業、保健、福祉などいろいろな分野の方をメンバーとしました「壱岐市人口減少対策会議」というものを立ち上げる予定としておりまして、現状分析や今後の対策について検討して、官民一体となって今まで以上に力を入れて取り組むように考えております。

3つ目の御質問に引き続き、お答えをいたします。

観光客のリピーター率の向上の御質問でございます。このところの観光の形態は、従来の見学型から体験を重視する傾向となっております。皆さんがおっしゃるように、日帰り客が多い壱岐市では、リピーター率を高めたり、滞在日数を延ばしてもらう工夫が必要ということは認識しております。

そこで、現在、島内でいろいろな体験メニューを構築しまして、それを旅行商品に取り込むと

いった動きを行っております。

例えば、市民にとって当たり前の生活の一部である農業の体験など、観光客にとっては観光商品となります。春に種まきの体験、秋に収穫の体験、そして、その材料を使って食材をつくり郷土料理の体験など、一年に数度のリピートを期待できるものもあります。

一方で、地域の方、宿泊施設の方との交流についても、交流民宿という新しい形態を進めております。宿泊する民宿の方と一緒に料理をつくったり、布団敷きを手伝うなどして民宿の体験を通して交流を深めていくと、これもリピートにつながるものと考えております。

また、壱岐市では、スポーツ合宿についても積極的に取り組んでおります。ことしの1月、九電工の陸上部に来ていただきました。5月には十八銀行、肥後銀行、鹿児島銀行のそれぞれの陸上部が合宿をさせていただいております。そのほか、野球やバレーボール、サッカーなどのスポーツ交流、新春マラソンやサイクルフェスティバルなどの大会も毎年実施されて、多くの方が島外からお見えになっていただいております。

そして、また最近では、外国からの観光客も島内で見かけることもあると思います。福岡からの交通アクセスを生かしまして、福岡市と連携を進めている結果と考えております。

しかしながら、何と申しましても、壱岐の観光は観光事業者だけでなく、市民の皆様が主役となっていく時代でございます。皆さんも美化運動や心を込めたおもてなしなど、できることに取り組んでいただきまして、市民全員で壱岐の魅力を高めていけたら、壱岐市は観光地としてますます発展していくものと考えております。

そして、4番目の質問でございます。空き店舗の質問にお答えをいたします。

郷ノ浦町の郷GOよっこいしょ、これは地元の郷ノ浦本町商店組合が運営するコミュニティ施設としまして、平成17年の12月にオープンしました。情報発信や憩いの場として、地域住民や商店街への来客者が集うスペースとして多くの人に利用されております。

壱岐市としまして、空き店舗の対策は商店街の活性化のためには重要なことだと考えております。これからも地域の商店会や壱岐市商工会、そして皆さんの協力を得て進めていければと考えております。

また、現在、商店街の活性化のために県外の方が使えるしまとく通過、そして市民の皆様が使えますプレミアム商品券を発行しております。市民や島外からの観光客の方々に市内でたくさんお買い物をしていただいております。これによって新たにお店を出したいという方がふえて、空き店舗にも新しいお店ができることを期待してるところでございます。

以上です。

〔企画振興部長（山本 利文君） 降壇〕

○議長（町田 正一君） それでは、郷ノ浦中学校の提言をお願いします。

○議員（郷ノ浦中学校） 初めに、旧中学校跡地の利用について、3つのことを考えました。

まずは、1つ目です。現在、市内の旧中学校跡地は、少年野球の大会や地域の球技大会などで活用されています。学校の敷地内にはグラウンドやプール、体育館やテニスコートなど運動できる場所がたくさんあります。それらを整備してスポーツ施設として利用できるようにしたらどうでしょうか。さらに、校舎を改造して島外のスポーツチームが宿泊する場所、または、ジムやバッチェンセンターなどにするのもおもしろいと思います。

中学校の跡地ではありませんが、サンドームが閉鎖されていますが、再び再開させて、旧中学校跡地に整備するスポーツ施設とあわせて活用したらどうでしょうか。

2つ目は、旧中学校は海の近くや山に囲まれた場所にあります。跡地だけでなく、周辺も整備することで自然の家のようにしたらどうでしょうか。小学生のキャンプ、修学旅行生に活用してもらえ、有効活用できると思います。

最後に、壱岐の郷土文化を体験できる施設をつくったらどうでしょうか。鬼凧制作や郷土料理のひきとおしづくり、貝細工制作など、壱岐ならではのものを体験できる施設をつくったらおもしろいと思います。

僕たちの考えとしては、働き手をふやすことが、壱岐の人口をとめる方法の一つだと思います。そのためには最初に提案したように、旧中学校跡地や空き店舗を利用した施設ができれば、わずかではありますが、働き口がふえると思います。

また、壱岐で会社を立ち上げたいと思う人を支援する制度があると、若い人の中にも壱岐に残ろうと思う人たちがふえてくるのではないのでしょうか。

さらに、農業、漁業の活性化に力を入れ、多くの人に知ってもらえるような壱岐ブランドを充実させていくことで、農業、漁業の魅力が引き出され、始める人がふえるでしょうし、以前から働かれている人もさらにやりがいを感じられると思います。

観光について私なりの考えが3つあります。

1つ目は、リピート率を高めるために、壱岐を訪れた人に特典をつけ、その特典は次回の壱岐滞在のときに利用できるようにすればいいと思います。壱岐を観光した人が、地元などに帰ったとき、壱岐の様子や壱岐のことについて少しでも知り合いの人に紹介すると、特典がつくといったことです。パソコンなどさまざまなネットワークを通じて、壱岐の観光スポットを撮った写真を掲示板に載せたり、壱岐の郷土料理を載せ、みんなに紹介すれば、自動的に特典がつくといったシステムになっていればいいと思います。特典を持っている人は、またぜひ壱岐に行こうとするでしょうし、その知り合いの人も紹介をしてもらったことをもとに、壱岐に来ることが考えられます。

2つ目は、滞在日数を延ばすために、壱岐観光の旅といった壱岐の観光スポットを訪れたり、

壱岐の歴史を肌で感じられるツアーをするために、1泊2日や2泊3日のモデルコースを提示して、宿泊施設のホームページをガイドブックなどに掲載すればいいと思います。郷土文化や郷土料理を味わえる体験館などがあれば、半日から1日を過ごせて、ますます壱岐のことを好きになるきっかけにもなると思います。

3つ目は、壱岐を多くの人に知ってもらうためのアピールがもっと必要だと感じます。同じ離島である五島や対馬は、全国的にも知られているものも多いですが、壱岐はまだまだのような気がします。もっと各地にアピールができるようなものがあれば、壱岐のことを知ってもらえると思います。五島のうどんや対馬のとんちゃんのように多くの人が気軽に楽しめる御当地メニューの開発をするために、壱岐の中でアイデアの募集をし、投票やコンテストを行うことから始めればいいと思います。そして、壱岐の豊かな自然や美しい景色を映画やCMの撮影で使ってもらえるような働きかけをするのもいいと思います。

空き店舗の利用について、私なりの考えがあります。何軒か連なって空き店舗になっているところがあります。先ほどの旧中学校跡地の活用と同じように、気軽に郷土文化を体験できる場所にしたらいいと思います。

また、観光案内所のような壱岐のパンフレットを置いたり、地図やポスターを張って観光客が気軽に利用できるスペースにするといいと思います。

そこで、壱岐を紹介するポスターを中学生が作成し、そのポスターを張ったりしたらいいと思います。

○議長（町田 正一君） それでは、市長のほうに提言に対する答弁をお願いします。白川市長。

〔市長（白川 博一君） 登壇〕

○市長（白川 博一君） 郷ノ浦中学校の提言に対するお答えをいたします。4点ございました。

まず、第1点、中学校の統廃合跡地活用の提言です。非常にいい提言をいただきました。1点目の合宿等の宿泊施設にしてはどうかということでございますが、やはり、合宿というのは、安全で安心して泊まれる、そして、十分練習ができるといった環境をつくる必要があります。御提言にもありますように、そのためには整備が必要ですし、合宿目的に合った整備というものをしなければいけません。したがって、そういう整備をするには、一朝一夕にはできないということは御理解いただけたと思います。

島内には多くの宿泊施設がありますので、宿泊についてはその利用をお願いする。その一方で、ことし、先ほどの一般質問の答えにもありましたように、実業団の合宿の実績があります。その合宿をした方々に、合宿をする上でどんなものが必要ですか、今の状況で大丈夫ですか、そういった聞き取り等々を行いまして、実際に今から、今は陸上ですけども、実際に合宿に来ていただける種目、そういった種目で学校跡地を利用できるものがあれば、積極的に活用していきたい

いと思っております。

また、自然体験や郷土文化などの体験につきましては、壱岐出合いの村やツインビーチの海と太陽の体験館など既存の施設、今ある施設を利用したいと思っておりますが、不足しているようであれば、校舎などの利用も十分考えられると思っております。

2点目の御提言ですが、御提言のように、働く場所をふやすことは、定住人口をふやし、人口減少を食い止めるために最も大事な対策であります。会社を立ち上げようとする人が、旧中学校跡地や空き店舗を利用していただければ、まさに一石二鳥だと思っております。

商工会には経営指導員という方がいらっしゃって、会社を始める場合や会社の経営などについて相談に乗ってくれる方がおります。もし将来、皆さんが会社を立ち上げようと思ったら、ぜひ相談をしていただきたいと思っております。

現在、会社を立ち上げたいと思う人を支援する壱岐市の施策といたしましては、情報通信関連企業の誘致を初め、一般企業の誘致にも積極的に取り組んでおります。企業誘致につきましては奨励措置、いわゆる、その来てくださる企業に補助金なり交付金なりを交付をしております。今現在では、レオパレス21のコールセンター、そして、株式会社マツオというのが自動車部品をつくっております。この2社が壱岐で経営されておりますけれども、約80名の方が雇用されているところであります。

3点目の提言は、リピート率を高めるための提言ということで、これもぜひ実現させたい、すばらしい内容であります。

現在、壱岐市では、壱岐行き観光サポーター制度というものを実施しております。これは、壱岐市民がサポーターとなり、島外からの誘客に応じてポイントを付与いたします。そして、ポイントに応じて商工会の商品券を差し上げる仕組みであります。

今回の提案は、全くこれと逆の発想で、市民ではなくて、来島する観光客に特典をつけるというアイデア、ぜひ今後参考にさせていただきたいと思っております。御提言をありがとうございました。

4点目の空き店舗を体験場所や観光案内所に活用することは、商店街や地域の活性化につながるものと考えています。

また、そこに皆さんの手づくりの地図やポスターを置いておくというアイデアは、観光客への温かいおもてなしとなり、壱岐の魅力を高めることになると思います。すばらしい提案ですので、空き店舗の持ち主の方や地元商店会、壱岐市商工会、そして生徒の皆さんと一緒に取り組んでいければと思っております。

また、先ほど、答えが漏れましたけれども、観光についてでございますが、モデルコースの提示につきましては、定期観光バスやタクシーの観光モデルコースがパンフレットなどに掲載されて

おりますけれども、1泊2日、2泊3日といった宿泊を伴ったモデルコースは確かに掲載されていないようです。

また、宿泊施設のホームページには、ゴルフパックやマリンスポーツプラン、釣りプランなどが掲載されている状況です。御提言のモデルコースにつきましては、壱岐市観光連盟を中心に宿泊業者、交通事業者、体験事業者など、各事業者が連携して作成し、観光連盟のホームページに掲載、各宿泊施設等がリンクさせるような方法をとれるように現在するようにいたしております。

次に、壱岐のアピールが不足しているとの厳しい御提言をいただいておりますが、壱岐をアピールするための素材として、食は大きな武器になると認識をしています。

御提言の御当地メニューに関しましては、ひきとおしに代表される郷土料理のPRや、昨年、壱岐市御当地グルメコンテストで優勝したまぶい丼、これはマグロとブリとイカの海鮮丼ですが、これに続く新メニューの開発も進めているところであります。

また、壱岐には、各店舗ならではのメニューもあると思いますので、皆さんもおいしいものがあれば、口コミなどで広げていただくようお願いいたします。

また、映画やCMの撮影に関しましては、マスメディアの影響力はすごいものがあると思っています。過去には、映画のロケ地として、「波光きらめく果て」あるいは「奈緒子」がございましたが、これに続く作品がありません。最近では、もてもてナインティナインや旅番組で大分壱岐も取り上げられるようになってまいりましたから、今後、CMも含め、多くのメディアの目にとまるような企画や誘致活動を進めていきたいと思っています。すばらしい御提言をありがとうございました。

〔市長（白川 博一君） 降壇〕

○議長（町田 正一君） 以上をもって、郷ノ浦中学校の一般質問及び提言を終わります。お疲れさまでした。

〔濱田 誠議員、豊島 圭裕議員、山口 幸翼議員、前田ひなの議員 一般質問席 降壇〕

.....

○議長（町田 正一君） 次に、勝本中学校、5番、本城匠議員、6番、中村遼太議員、11番、坂口絵理華議員、12番、山内雄心議員の登壇をお願いします。

〔本城 匠議員、中村 遼太議員、坂口絵理華議員、山内 雄心議員 一般質問席 登壇〕

○議員（勝本中学校） 私たちの質問は、島内の商業施設についてです。「私たちの町をよくするために」のテーマで話し合いを持つ中、壱岐島内の活気をふやすとともに、壱岐へ訪れる人をふやしたいということが話題に上がりました。

そこで、壱岐島内にショッピングモールや地元の特産品や加工品を売る場所をふやしたら、島を訪れたいと思う人をふやし、島内の活気も出るということ話を話した結果、このような質問

の柱が3つできました。

1つ目は、勝本の販売所についてです。郷ノ浦町や芦辺町、石田町にはそれぞれ四季菜館や壱番館、マリンパル壱岐など、地域の新鮮な野菜や海産物などを販売する販売店がありますが、勝本にはありません。私たち勝本町民としても地元の新鮮な野菜や海産物を売る店があったほうがいいと思います。それがあつたら、とても便利で身近に通いやすいとも考えています。

勝本では朝市が行われていますが、最近では、その朝市を行う人も訪れる人も高齢者が多いと感じます。なので、お年寄りも行きやすい身近な場所にこういった店があるとよいと思いました。

今後、壱岐市で、勝本町にそのような販売所をつくる予定はありますか。また、島内で新しくつくる予定はありますか。

2つ目は、若者向けのメニューについてです。1つ目のような販売店で壱岐の食材を使ったアイスクリームやパン、ピザなどが売られていたり、食べるスペースがあつたりしたら、私たちも利用すると思います。こういった食べ物は、若者の人気を集めると思います。私たち中学生も利用する機会がふえると思うし、地元のデザートなどをつくつたらよいと思うのですが、どうでしょうか。

また、島内で利用者をふやす工夫はどのようなことを考えてありますか。

3つ目は、商品券についてです。島外向けのしまとく通貨のように島内向けの商品券もありますが、額が少し高いので、私たちは接する機会が余りありません。小さな額の通貨があれば、親が子のお小遣いとして使つたり利用したりできると思うので、市内各所共通の商品券やプリペイドカードがあるといいのではないのでしょうか。そうすれば、使う人数がふえ、島の商業の活性化につながるとは思います。そんな小額の商品券やプリペイドカードの導入予定はありますか。

以上で、勝本中学校の質問を終わります。

○議長（町田 正一君） 勝本中学校の質問に対する理事者の答弁を求めます。非常にユニークな質問で貴重な提言だと思いますので、誠意を持って部長には回答をお願いします。農林水産部長。

〔農林水産部長（堀江 敬治君） 登壇〕

○農林水産部長（堀江 敬治君） 皆様、おはようございます。質問1の農水産物の販売所の設置等についてお答えいたします。

現在、勝本には、地元でとれた野菜、海産物を販売する販売店はございません。しかしながら、勝本には、江戸時代から続いている伝統ある朝市があります。朝とれたばかりの新鮮な野菜や海の幸などが毎朝販売され、活気にあふれております。このように先人から引き継がれた朝市の持つ本来の味わいや魅力を高めて、これからも地元産の野菜や海産物を皆様の食卓に届けていかれたほうがよいかと思っております。したがいまして、この朝市を後世に残すためにも、現在のところ、新たに販売所を建てる計画はございません。

次に、質問2の農水産物の販売所における壱岐の食材を使った商品の販売、飲食についてお答えいたします。

朝市や販売店等では、新鮮な壱岐の農水産物を取り扱っておりますので、これからも多くの方に御利用いただければ、農家、漁家の所得の向上につながります。御指摘のとおり、利用者をふやすことが大変重要なことでもあります。

その方法としましては、それぞれの販売店の特色を生かし、おもてなしの心で接しながら、島内であれば、ロコミやケーブルテレビ等で宣伝を行い、島外からの旅行客につきましては、観光案内所やパンフレット等によりPRをすることで効果が出てくるかと思っております。

その場所で食事をすることは、施設等の管理上いろんな規制がありますが、言われるように壱岐の食材を使ったアイスクリームやパンなどをみんなで食事できる、そういったスペースがあればよいと思っておりますので、今後研究をしていきたいと思えます。本日はありがとうございました。

〔農林水産部長（堀江 敬治君） 降壇〕

○議長（町田 正一君） 企画振興部長。

〔企画振興部長（山本 利文君） 登壇〕

○企画振興部長（山本 利文君） おはようございます。それでは、勝本中学校の3つ目の質問でございまして、商品券に関する質問につきまして答弁をいたします。

しまとく通貨の質問ですが、これは1セット5,000円、これがしまとく通貨の券でございます。これが1,000円券で、これが6枚セットで合計で6,000円なんですけど、これが5,000円で販売されてます。

プレミアム商品券、これがプレミアム商品券の1,000円券と500円券、1,000円券が6枚、それにプラスして500円券が10枚で1万1,000円なんですけど、これが1万円で販売をされている商品券です。

こちらが高額でありますので、これとは別に、壱岐市商工会で発行していますいきいき商品券というのがあります。これがいきいき商品券を拡大したもので、これは1,000円だけなんですけど、これと1,000円のほかに500円という券もあります。この500円券と1,000円券は1枚から買うことができますので、島外でインターネットとかで買い物をするのではなくて、これを利用して島内で買い物してもらうことで島内の商業の活性化につながると思えますので、皆さんもぜひ御利用されてください。

それで、もう一つの御質問のプリペイドカードにつきましてですが、プリペイドカードにつきましては、読み取る機械等の整備も経費がかかりますので、今のところ導入の予定はございません。

以上でございます。

〔企画振興部長（山本 利文君） 降壇〕

○議長（町田 正一君） それでは、勝本中学校の提言をお願いします。

○議員（勝本中学校） 僕たち勝本中学校では、天候に左右されない農業、育ててふやす漁業に力を入れることで、農業、漁業を職業とする人の収入を安定させて、島で働ける場所をふやし、住む人をふやしてはどうかという提言をします。

1学期、勝本中学校では、3年生全員にこれからの壱岐市についてのアンケートをとりました。その結果がこちらのグラフになります。

アンケート結果、将来の壱岐で心配なことは何ですか。1、高齢化、老人介護、27%、2、人が減っていく、18%、3、若者が出ていく、少なくなるなど18%、仕事が減る、統廃合、伝統・歴史が途絶えるなどが含まれています。4、環境問題、PM2.5など8%、その他、1次産業をする人がいなくなるなど29%でした。1つ目、2つ目、3つ目の心配なことを足し合わせると、全体の63%になりました。

勝本中学校の3年生の半数以上が人口に関しての不安などを抱いていました。きれいな自然やおいしい特産品など人情がたっぷりの僕たちのふるさと壱岐を人の少ない島にはしたくありません。僕たちにとっても大事なふるさとなので、人が少ない島だったら寂しいです。そして、もし働きに出て帰ってきたときに、自分が前いたときより人が減っていたら寂しい感じがします。だから、僕たちは壱岐に住みたいと思う人をふやすために、このような提言を考えました。

壱岐に住む人が減っているのは、島内に仕事が少ないからだと思います。島内に仕事をふやすためには、新しい仕事を始めることより、今ある産業や農業に取り組むことが必要だと思います。壱岐の農業や漁業は、ほかの市や県に負けないくらいとてもよいもので、よくテレビでも取り上げられています。壱岐にはこういった誇れるものがたくさんあるので、もっと伸ばしていき、自然豊かな壱岐で仕事もあるなら、ぜひ住みたいと思って移住してくる人がふえれば、島に活気が出ると思います。そのために壱岐市で取り組んでいただきたいと思っていることが3つあります。

まず、1つ目は、天候に左右されない農業、育ててふやす漁業を取り入れる人に補助金を出して、始める人をふやしてはどうか。補助金を出して少しでも援助をすることで、始めてみようかなと思ってくれる人が出てくるのではないかと思います。

2つ目は、島外から天候に左右されない農業、育ててふやす漁業をやってみようかなと思う人を招いて、この2つのことをPRしてはどうでしょうか。壱岐に講師を招いて講習会を開けば、島内の人でも参加しやすいし、やってみようかなと思う人も一緒に体験できて、壱岐の魅力を知ることができると思います。

3つ目は、壱岐で育った農作物や海産物に壱岐のブランドをつけて、全国的に宣伝、販売をし

てはのでしょうか。

今、壱岐には、壱岐牛や壱岐剣、壱岐焼酎などブランド品があります。こういったものに続いて、農作物のブランドがあれば、その作物をつくる仕事がふえるし、販売もでき、いいと思うからです。

以上で勝本中学校からの提言を終わります。

○議長（町田 正一君） 勝本中学校の提言に対して、壱岐市長の答弁を求めます。白川市長。

〔市長（白川 博一君） 登壇〕

○市長（白川 博一君） 勝本中学校の御提言にお答えをいたします。

勝本中学校の皆さんの提言は、アンケートの結果を踏まえて、農業・漁業の振興を図ることによって住む人をふやしたいということでございます。まさに人口減少を食いとめるための提言であります。人口減少を食いとめるためには、働く場所が必要だ、そのとおりだと思っています。

そこで、企業誘致とかいろんな会社を立ち上げるのではなくて、今ある壱岐の主産業である農業、漁業を振興することで、この人口減少を食いとめたいという切実な皆さん方の提言が聞こえてまいりました。

その中で、天候に左右されない農業は、農業者にとって永遠の問題と考えているところであります。この天候に左右されない農業ができれば本当に素晴らしいと思っておりますが、実際には、異常気象、台風、大雨などが収穫及び品質に大きく影響を及ぼし、価格も大きく変動いたしますので、自然と向き合うことが農業の難しさであります。

また、農業を始めるには、まず、初期投資及び技術面や経営面など多くの支援が必要であります。さらに、農業者として自立をさせること、これが最も重要なことであると思っております。単に補助金を出すだけでは、なかなか農家はふえていかないのではないかと考えているところです。

しかし、現在は、後継者も含めて、新しく就農する方へ支援を行っており、活用もいただいております。また、島外者に対して、島外からの方に対して体験型農業も実施をしています。

次に、育ててふやす漁業を振興したいということですが、この育ててふやすという漁業といえば、養殖ということになります。現在、壱岐市の各漁協では、養殖は行っておりません。今までに養殖計画もございましたが、種苗代、いわゆる稚魚とか稚貝ですね、養殖のもととなる小さな種でございますけれども、その購入費あるいは餌代など諸経費がかかり、採算がとれないということで断念されております。個人での養殖には補助はございませんけれども、共同で始められる場合は補助制度があります。

また、現在、水産業は、漁獲の減少、魚価の低迷、燃油の高騰など非常に厳しい状況であります。この状況を克服するために、さまざまな補助を行っているのが現状です。

また、将来、漁業へ就業が期待される小中学生を対象とした水産教室、経験をなされたと思い

ますけれども、魚の開きとか一夜干しとかの体験ができるようにしております。また、若い人が漁業を就業したいときに、漁業をされている漁家の子供たちが漁業に就業したいときなど、一定の補助をしているというのが現状です。

しかし、いつまでも補助するわけにはいきませんので、最終的には御本人が努力してやり遂げ、後継者を育てていかねば、漁業は衰退していくのではないかと考えております。

育ててふやす漁業の体験ツアーは、現在、壱岐市では行っておりません。漁業には、いろいろな漁法があり、何でも体験できるものではありません。今後は、何を体験してもらうか、関係機関と相談しながら考えていきたいと思っております。

農水産物の壱岐ブランド拡大に向けた取り組みは、関係機関と連携をとりながら行っているところであります。農産物のブランド化は、壱岐生まれの壱岐育ちの壱岐牛、日本農業大賞を受賞したアスパラガスがブランド化されて出荷をされております。また、米のつや姫等々が本当に今ブランド化されつつあるところであります。

また、壱岐産の新鮮な野菜、加工部会等の製品につきましても、他の産業と連携し、壱岐産ブランドとして確立を図ってまいります。

先ほど御提言の中にありました海産物のブランド化は、大型ケンサキイカ、35センチ以上でございますけれども——を限定した壱岐剣、またはケンサキイカを瞬間凍結し真空パックにした玄海美剣、薄塩で仕上げた粒ウニがブランド化され出荷をされております。

今後は、関係機関と連携をとりながら、壱岐の農水産業の振興のために、宣伝、販路の拡大に努めていきたいと思っております。貴重な御提言をありがとうございました。

〔市長（白川 博一君） 降壇〕

○議長（町田 正一君） 以上をもって、勝本中学校の一般質問及び提言を終わります。

〔本城 匠議員、中村 遼太議員、坂口絵理華議員、山内 雄心議員 一般質問席 降壇〕

.....

○議長（町田 正一君） ここで暫時休憩をします。再開を10時25分といたします。

午前10時15分休憩

.....

午前10時25分再開

○議長（町田 正一君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

一般質問を続けます。

次に、芦辺中学校、7番、境ひとみ議員、8番、寺田想議員、13番、米田智愛議員、14番、長嶋冴映議員の登壇をお願いします。

〔境 ひとみ議員、寺田 想議員、米田 智愛議員、長嶋 冴映議員 一般質問席 登壇〕

○議員（芦辺中学校） 私たち芦辺中学校は、中学生と高齢者とのかかわりが少ないということから、中学生による高齢者への支援ができないかと考えました。そこで、2つのことを質問します。

現在、壱岐市で高齢者が豊かに暮らすために行っている取り組みはどのようなものがありますか。また、その中で中学生が取り組めそうなものはありますか。

以上で質問を終わります。

○議長（町田 正一君） 芦辺中学校の質問に対する理事者の答弁を求めます。市民部長。

〔市民部長（川原 裕喜君） 登壇〕

○市民部長（川原 裕喜君） 芦辺中学校からの御質問に対しましてお答えをいたします。

壱岐市で高齢者が豊かに暮らすために行っている取り組みは、それと、中学生が取り組めそうなものは何かありますかということなんですけれども、壱岐市における人口構成ですが、壱岐市の人口は、7月31日現在で2万8,615名でございます。一般的に65歳以上の方を高齢者と言いますが、市内の65歳以上の方は9,658名で、人口全体に占める割合は33.7%となっておりますので、壱岐市では3人に1人が高齢者ということになります。

高齢者の皆様は、これまで培ってこられた豊富な人生経験からさまざまな知識や技能をお持ちの方がおられますけれども、加齢に伴い身体能力の低下があらわれ、65歳以上の方の約22%は介護を必要とされ、要介護認定者となっております。

壱岐市では、お元気な高齢者には今まで同様に健康を維持していただけるよう、介護を必要とされる高齢者には個々に応じた介護が提供されるよう、敬老会の開催、地域での見守り活動の推進、健康維持のための温泉などへの入浴料やはり・きゅうマッサージなどへの助成金の交付、また積極的に外出をしていただくため、市内バス路線をどこまで乗っても100円で利用できるようバスカードの交付、さらには、介護予防事業や体の不自由な方などへの配食サービスなどさまざまな事業を行っているところでございます。

まず、敬老会の行事につきまして御紹介をいたします。

市の主催による敬老会は、毎年9月の敬老の日に旧町単位の4つの会場で開催をいたし、表彰やアトラクションで後継者を敬い、その御長寿を祝福するようにいたしておるところでございます。

アトラクションは、旧町からの経緯もありまして、郷ノ浦町、石田町につきましては地域婦人会で、勝本町、芦辺町につきましては文化団体の協力により、趣向を凝らした出し物やプロ顔負けの演奏、演技を披露していただき、参加者皆様に楽しんでいただいているところでございます。

今後は、中学生や小学生の皆さん、さらには園児の皆さんが出演をしていただくならば、さらにアトラクションは盛り上がり、参加された高齢者の皆様も充実した楽しい敬老会になるのではないかと考えているところでございます。御協力をいただけることを期待いたしております。

次に、地域での見守り活動の推進についてですけれども、壱岐市では、高齢化率の上昇とともに、ひとり暮らしの高齢者が増加傾向にあります。ひとり暮らしの高齢者の中には、お元気な方、介護を必要とされる方などさまざまではありますが、自宅で倒れていても通報することができず、健康状態が悪くなってから発見されるなど、テレビなどで報道をされる孤独死の問題も抱えております。

このようなひとり暮らし世帯に対する支援策といたしましては、壱岐市では地域の見守り活動を展開したいというふうに考えております。中学生の皆様にも、隣近所におひとり暮らしの高齢者がいらっしゃるようでしたら、朝夕の通学のときなどに挨拶を交わしたり、少し気にかけていただき、異変を感じた場合には、保護者や学校の先生に通報していただければ幸いです。

時間の都合で2つの事業について紹介をいたしましたけれども、皆様方も地域の一員として一翼を担っていただくことを期待いたしております。

以上でございます。どうもよろしくお願いいたします。

〔市民部長（川原 裕喜君） 降壇〕

○議長（町田 正一君） それでは、芦辺中学生の提言をお願いします。

○議員（芦辺中学校） 中学生による高齢者の支援について、壱岐市はイベントが多く、地域とのかかわりはあるほうだと思いますが、高齢者はイベントに参加する機会が少なく、私たち中学生も直接かかわる機会が余りありません。

そこで、高齢者と中学生との触れ合いの場を設けたいと思い、提言します。

1つ目に、自宅や老人福祉施設などを訪問し、高齢者の知恵を教えてもらったり、昔遊びを一緒にやることを通して高齢者を元気にしたいです。

具体例として、壱岐市社協だより「ほほえみ」の39号に取り上げられている青年団、友愛訪問の記事を見ました。石田町の青年団がひとり暮らしの高齢者の自宅を訪問し交流しています。日ごろ、人と話す機会が少ないので、訪問をととても楽しみにしておられ、交流を通して元気になる姿が見られるそうです。

しかし、青年団員の数が年々減ってきており活動も大変なようなので、私たち中学生もこのような活動に参加し、役に立てないでしょうか。

2つ目に、壱岐市を活性化するために、高齢者の団体がさまざまな活動をされているので、中学校が協力してできる取り組みを調べ、実践していきたいです。

具体例として、芦辺町のはまなすという団体は、現在12名で活動は20年目になります。箱崎地区の独居の方への弁当配食、空き缶拾いなど地域のために活動されています。私たち中学生もこのような活動に参加することで、高齢者との触れ合いも図れ、地域のために貢献できるのではないのでしょうか。

以上のことを提言します。

○議長（町田 正一君） 芦辺中学校の提言に対して市長の答弁を求めます。白川市長。

〔市長（白川 博一君） 登壇〕

○市長（白川 博一君） 芦辺中学校の提言にお答えをいたします。

皆さんは、高齢者の方々のお気持ちを察する、そして理解する、その上で何ができるかということを考えてみたということであります。すばらしい御提言に感謝をいたします。

先ほどの質問の中で部長が回答いたしましたように、壱岐市における人口構成において、高齢者の割合、先ほど申しますように、65歳以上の方々の割合は約33%となっております。

一方で、皆様方の年齢、1年生から3年生までの総数は875名で、壱岐の人口に占める割合は約3%です。壱岐市では、地域イベントや学校行事など年中数多く開催されております。趣味を同じくする方々の交流というのは盛んに行われていますけども、世代間交流というのは少ない。おじいさん、おばあさん、そしてお父さん、お母さん、そして子供さんたち等々の交流は少ないように思っています。地域における世代間交流は、地域の方同士のつながりを深め、住民同士が互いに支え合う仕組みを醸成するために大変有意義なことだと思っております。高齢者皆様の豊富な人生経験から、さまざまな知識や技能を学ぶ。逆に、皆さんが持っている現代の情報社会機器の便利さや使い方をお教えるなど、交流の材料はたくさんあるのではないのでしょうか。

一方、体の不自由な高齢者や施設に入所されているお年寄り、なかなか社会との交流がありません。皆さん方が地域のお年寄りの自宅を訪問し、話し相手になったり、施設を訪問し交流したりすることは、高齢者の皆様に大変喜んでいただける、本当に有意義なものであると思っております。

健康に不安を抱えていらっしゃる高齢者には、皆さんの元気な態度や姿勢はとても励みになるものです。まずは、隣近所の高齢者と挨拶を交わしていただき、高齢者の意見に耳を傾け交流を図り、高齢者が希望する中学生にできる活動について十分検討していただきたいと思っております。地域では皆さんの積極的な活動をきっと心待ちにしておられると思っております。

ところで、先ほどからいろんな活動に自分たちも参加したいんだというお気持ちをお聞きしました。今、高齢者福祉、社会福祉に主として携わっておられるのは、壱岐市の社会福祉協議会、各町にもそれぞれの社会福祉協議会が組織としてございますけれども、その社会福祉協議会の皆さんに皆様方の気持ちをお伝えして、中学生の皆さん方がどういう活動ができるのか、そして、そういったメニューを提示をしていただくように、私のほうからお願いをしてみます。貴重な御提言をありがとうございました。

〔市長（白川 博一君） 降壇〕

○議長（町田 正一君） 以上をもって芦辺中学生の一般質問及び提言を終わります。お疲れさま

でした。

〔境 ひとみ議員、寺田 想議員、米田 智愛議員、長嶋 冴映議員 一般質問席 降壇〕

.....

○議長（町田 正一君） 次に、石田中学校、9番、山下純門議員、10番、山川椋太議員、15番、安永真里衣議員、16番、川富智希議員の登壇をお願いします。

〔山下 純門議員、山川 椋太議員、安永真里衣議員、川富 智希議員 一般質問席 登壇〕

○議員（石田中学校） 僕たち石田中学校は、地域活性化について4つ質問したいと思います。

1つ目は、郷ノ浦町や勝本町の商店街ではシャッターが閉まっている店が多くあり、通りが寂しく感じます。今後の商店街活性化についての対応や対策について教えてください。

○議長（町田 正一君） テレビの中継のほうがあるんで、もうちょっと大きな声で発言をお願いしますと、聞いている人から電話がありましたので、もうちょっと大きな声をお願いします。

○議員（石田中学校） 石田中学校では、7月に地域清掃活動を行いました。販売機の横にはごみ箱がなく、捨ててあるペットボトルや缶などのごみがたくさんありました。壱岐市が行っているごみの減量や放置ごみについての対応や対策について教えてください。

10校あった中学校が4校に統廃合されました。統廃合したことによる利点や、使用しなくなった施設の活用について教えてください。また、今後、小学校や高校は統廃合されることはないのでしょうか。

高齢化が問題になっている中、介護施設や介護福祉士や働く人が足りているのだろうかと考えています。介護施設で働く人の現状と、最近島外に進学した学生はどのくらい壱岐に戻ってきていて、どのような仕事についているのかを教えてください。

○議長（町田 正一君） 石田中学校の質問に対する理事者の答弁を求めます。企画振興部長。

〔企画振興部長（山本 利文君） 登壇〕

○企画振興部長（山本 利文君） それでは、石田中学校の皆さんの1番目の質問、商店街の活性化につきまして答弁をいたします。

商店街の空き店舗につきましては、先ほど、郷ノ浦中学校の皆さんからも御質問、御提言をいただきましたが、壱岐市にとって大きな課題であることを改めて感じておるところでございます。

御質問の今後の商店街活性化につきましては、引き続き現在発行しておりますしまとく通貨、そしてプレミアム商品券、こういうものを発行しながら島内消費の拡大を進めてまいります。これに続きますさらなる活性化策につきましては、壱岐市商工会、そして地元の商店会とも連携をしながら検討していきたいと考えているところでございます。

以上です。

〔企画振興部長（山本 利文君） 降壇〕

○議長（町田 正一君） 保健環境部長。

〔保健環境部長（斉藤 和秀君） 登壇〕

○保健環境部長（斉藤 和秀君） 石田中学校の2番目の質問、壱岐市が行っているごみ減量や放置ごみについての対応や対策についてですが、石田中学校の皆さんは7月に地域の清掃活動をされたということですが、大変お疲れさまでした。この活動は、地域の皆さんもありがたく、そして頼もしく感じられていることと思います。

市では、皆さんが感じているように、ポイ捨てされた道路に散乱しているごみが多いということで、いろいろな取り組みをしています。

まず、平成24年度から取り組んでいるのが、「ポイ捨てをしない、させない、許さない」運動として、ポイ捨てゼロ宣言の署名運動です。市内242の自治公民館のうち、現在までに184の自治公民館で9,615人、事業所が20事業所で1,398人の方々に署名をいただいております。

ポイ捨ては一人一人の意識の問題ですので、再認識していただくことを目的に取り組んでいます。

また、壱岐市は、ボランティア活動として道路等の清掃活動に取り組んでいただいております団体も多く、昨年1年間に301件のボランティアでの清掃活動が実施されました。特に霞翠小学校では、平成15年から毎年、全校児童が道路沿いのごみ拾いを「霞翠小ごみゲッツ」として取り組んでおられます。昨年は、各コースに分かれ、総距離約100キロメートルで行われました。その様子は、壱岐ビジョンでも放映をされましたが、その中で大人の皆さんへのお願いとして、ポイ捨てをしないように呼びかけをしてもらいました。

市内には現在多くの自動販売機が設置されています。市としましては、空き缶、空き瓶、空きペットボトルの回収ボックスを設置するように指導していますが、回収ボックスを置くと、いろいろなごみを入れる方があるということで設置をやめたところもあるようです。今後もさらに指導を徹底していきたいと思っております。

公園等に自分が持っていき、ごみとなったものは自分で持って帰ってもらうように指導しています。しかし、放置されたごみは市のそれぞれの所管で回収し処理をしています。

壱岐は、自然豊かで史跡も多く、観光の島を目指していますので、きれいな環境を維持していかなければなりません。ことしは、がんばらば国体も開催され、壱岐を訪れる方も多くなりますので、9月を島内一斉清掃の月と位置づけて、市民皆様の御協力をいただき、ごみのない壱岐の島でお迎えしたいと思っています。

次に、ごみ減量化への取り組みですが、ごみを限りある資源として分別によりリサイクルを推進し、焼却場で燃やすごみを減らして、資源循環型社会を目指す取り組みを実施しています。

壱岐市は、ごみを21種類に分別し出していただいておりますが、空き缶、空き瓶、ペットボトル、トレイ、雑誌、段ボールなどリサイクルできるものはリサイクル業者に販売し、わずかではありますが市の収入にしています。

平成24年度の壱岐市のリサイクル率は38.2%にもなっており、長崎県の中でも毎年1位となっています。

また、平成25年度からは生ごみを収集して、液体肥料にする取り組みも始めています。これからもリサイクルできるものは可能な限り資源として利用する取り組みを実施していきます。皆さんもリサイクルに興味を持っていただき、御協力をよろしく願いいたします。

〔保健環境部長（斉藤 和秀君） 降壇〕

○議長（町田 正一君） 教育次長。

〔教育次長（米倉 勇次君） 登壇〕

○教育次長（米倉 勇次君） 質問の3番目、中学校統廃合による利点、そして使用しなくなった施設の活用、今後の小学校や高校の統廃合のことにつきましてお答えをいたします。

まず、初めに、中学校が4校に統合されたことによる利点についてお答えをいたします。中学生になると、体も心も大きく成長いたします。その中学生にとって必要とされる教育環境が整えられました。

1つ目に、同年代の生徒数がふえ、友達関係が広がったことです。

2つ目に、進級するときクラスがえがえる適正な規模に統合したので、人間関係が活性をしていくこととなります。クラスがえするとき、適正な規模で大人数になりますので、人間関係は当然活性化をしていくわけです。

3つ目に、部活動の数が多くなったと思います。入部の選択肢が広がったことなどが上げられます。

次に、使用しなくなった施設の活用についてお答えをいたします。先ほど、郷ノ浦中学校の質問でもお答えしましたように、現在、体育館やグラウンドは、ジュニア野球や公民館行事等の社会体育の施設として地域に開放し、多くの方々に利用いただいております。

校舎につきましては、建築された年が古く、現状のままの活用には安全性に欠ける、そういった場所は解体をしたいと考えております。利用に耐え得る部分につきましては、企業誘致などに活用をいたしたいと考えております。

小学校の統廃合につきましては、昨年7月に壱岐市小学校統廃合検討委員会をつくり、保護者の方や地域の代表者の方々とともに、壱岐における小学校教育のよりよいあり方につきまして、約8カ月間協議を進めてきました。その結果、子供の数がますます少なくなってくる場合は、統合の検討をしなければなりませんけれども、今の段階での統廃合は必要ないとの結論に至ってお

ります。

また、高等学校につきましては、長崎県が管理をいたしておりますので、県に問い合わせをいたしました。壱岐につきましては、今のところ統合は考えていないとの回答でございましたのでお伝えいたします。

〔教育次長（米倉 勇次君） 降壇〕

○議長（町田 正一君） 保健環境部長。

〔保健環境部長（斉藤 和秀君） 登壇〕

○保健環境部長（斉藤 和秀君） 石田中学校の4番目の質問、介護施設や働く人の現状と、島外に進学した学生はどれくらい壱岐に戻ってきて、どのような仕事についているかについてですが、現在、壱岐市における介護保険施設など自宅以外で介護を受けることができる施設は、特別養護老人ホーム、老健施設、グループホームなど合計8施設、352人が施設で介護サービスを受けることができます。

また、新たに旧箱崎中学校グラウンド跡地に、60人が入所できる特別養護老人ホームが建設中であり、来年3月には入所できることとなります。

介護施設については、3年ごとに作成する介護保険計画の中で高齢者数、介護サービス利用者数等から推計して必要数を決定しており、現計画の中では現在の定数で持続していると考えています。今後新たな介護施設が必要となれば、計画作成の中で検討していくこととしています。

一方、介護施設やデイサービス、ヘルパー等の事業所で勤務されてある介護従事者の方は50事業所、約900人が働いており、各事業所に必要な介護職員については、それぞれの事業所で必要数を確保しています。

しかし、独居高齢者や高齢者のみの世帯の増加や介護サービスに対するニーズの多様化等により、サービス必要量がふえていまして、介護職員は不足ぎみです。

市立特別養護老人ホームを例にとると、職員募集をしても、募集予定数に達していない状況であります。他の社会福祉協議会等の事務所におきましても、同じような状況ではないかと考えています。介護が必要となっても、住みなれた地域で自分の能力に応じ自立した日常生活ができるよう、本人・家族希望による適切なサービスが提供できるよう、介護従事者の人材を安定的に確保する必要があります。

その人材確保のため、社会福祉協議会等において介護職員研修会等が開催されています。

進学状況については、島外の医療福祉系学校には、毎年約30人が進学をしていますが、卒業後すぐに壱岐に戻ってきて就職する人はほとんどいない状況です。医療福祉系学校等に進学した人を壱岐市内で働いてもらうためには、働く職員の勤務条件、研修教育の機会等、その働く職場を魅力あるものにしなければなりません。

また、何よりも若者が都会で働きたい、そして、自分の能力を高めたいという志向等もあり、難しい問題ではありますが、壱岐市で働きたいという環境づくりを医療福祉関係者と一緒になって進めてまいりたいと考えています。

介護職、看護師等の仕事は確かに大変な仕事であります、一生懸命お世話をして、患者、利用者から「ありがとう」の言葉や、その方々の笑顔を見ると、やりがいのある、誰かがやらなくてはならない、とても重要な仕事であります。どうぞこれからの若い方々が自分の両親や祖父母のこと、そして将来の壱岐のためにこのような福祉関係や医療関係のよき担い手となり、壱岐に帰ってくださることを熱望、期待しております。

次に、島外に進学した学生がどれくらい壱岐に戻ってきていて、どのような仕事についているかについてですが、市では現在、統計的なデータは持っていません。

参考ですが、ハローワーク壱岐とあって、仕事を紹介してくれるところがありますが、平成26年3月に大学、短大、専門学校を卒業された方で、ここを通じて壱岐市内に就職した方は7名います。職種は事務職、栄養士、保育士となっています。

また、平成26年4月に壱岐市役所に採用された、平成26年3月の大学、短大、専門学校卒の方は8名で、内訳は、市役所事務職が1名、幼稚園が1名、消防署が4名、市民病院が2名となっています。

以上でございます。

〔保健環境部長（斉藤 和秀君） 降壇〕

○議長（町田 正一君） それでは、石田中学校の提言をお願いします。

○議員（石田中学校） 管理は大変かと思いますが、まずは、放置ごみをなくすために、休憩所や自動販売機横には必ず分別ごみ箱を置く。また、活性化とはいきませんが、景観をよくするために商店街のシャッター通りには絵を描いたり花を置いたりするなどして、通りのイメージを変える工夫をすることを提案いたします。

今以上にこれから若い人たちが壱岐で生活でき、壱岐で人材育成等活用ができる場をつくる必要があるのではないかと考えます。

そこで、統廃合されて使われなくなった施設などを利用し、介護福祉士や農業、水産など壱岐で仕事場があり、各業者と連絡できる専門学校などの人材育成施設をつくること。そして、修了後は、各事務所や市役所などの専門の課へ就職していけるようにつなげ、人材活用をしていく組織づくりをすることを提案します。

○議長（町田 正一君） 石田中学校の提言に対して市長の答弁を求めます。白川市長。

〔市長（白川 博一君） 登壇〕

○市長（白川 博一君） 石田中学校の御提言にお答えをいたします。

放置ごみ対策等景観をよくするための方策についてというのが第1番目の質問であります。環境美化と町を明るくする、活性化を図る工夫をという、壱岐を元気づけるための提言をいただきました。

壱岐市では、快適な生活環境の創造と美しいふるさとづくりを目的といたしまして、環境美化の推進に関する条例というのが制定されています。その中で、市の責務、市がやらなければならないこととして、市民の意識の啓発及び高揚並びに環境美化に関する知識の普及に努めなければならないと定められています。

一方で、市民の責務、市民の皆様がしなければならないこととしては、この目的達成のため、みずからの身近な地域における環境美化のための実践活動に積極的に参加するとともに、市の実施する施策に協力しなければならないと定められています。

また、自動販売機の設置業者は、指定容器回収のためのボックスを設置し、その機能が十分発揮されるよう管理をしなければならないとも定められています。これまでも設置事業者に対して指導等を行ってまいりましたが、まだ実行されていない販売機があるようです。

実は、過去に設置をしたその空き缶の回収ボックスの上に、一般の方が、一般のごみを置いていく、そういったこともあったようです。やはり市民の皆さんのモラルの向上を図らなければならないとされているところであります。

しかし、さまざまな事情等があると思えますけれども、ボックスを設置して適正にきれいに管理してもらうよう、さらに指導してまいります。

6月に開催されたサッカーワールドカップブラジル大会では、日本チームは決勝トーナメントには進むことができませんでした。しかし、試合には負けたものの、試合後にスタンドのごみを拾う日本人サポーターの様子が全世界に報道され、世界の人々から賞賛を浴びました。日本人はこのように立派な行動ができる国民であることに誇りとして行動しなければなりません。この島が資源循環型のきれいな島となるよう、市民の皆さんの協力を得ながら、今後もさらに取り組みを進めていきたいと考えています。

また、空き店舗等に対する絵画等のことにつきましては、郷ノ浦中学校の提言の中でお答えいたしましたので割愛いたします。

次の提言は、統廃合後の校舎の活用についてであります。これも郷ノ浦中学校からの提言としてでございますけれども、郷ノ浦中学校からは合宿等の提言がありましたが、石田中学校からは、農業や水産業あるいは介護福祉士等の専門学校での人材育成と地域産業の連携をという重たい提言であります。

現在、壱岐市といたしましては、建設、建築関係を中心に壱岐高等職業訓練校があります。技術者を育てておりますけれども、提言の職種の施設はございません。農業や漁業についての後継

者育成の行政メニューにつきましては、勝本中学校の提言の中でお答えしたところでございますけれども、専門学校となると定員が40名、1クラス40名いないと経営的に成り立たないと言われております。

また、学校は継続していかなければなりませんので、その40名の生徒さんを毎年確保する、そして、その卒業した40名の皆さんを全部就職あっせんしていくというようなことが必要となりますので、専門学校を壱岐につくるということはなかなか厳しいものがあります。

しかしながら、今月初め、前の壱岐高校の校長先生でありました廣瀬典治校長先生が退職後、校長として、現在、長崎の介護福祉専門学校の校長になっていらっしゃいます。今月初めにお会いをいたしました。その中で、壱岐は、もちろん壱岐高校の校長先生ですから、壱岐の事情には大変お詳しい。そういった中で壱岐は介護関係の職員が大変不足しております。サテライト、さっきは40人と言いましたけど、例えば10名などのサテライト的な学級を壱岐につくっていただけませんか。何かいいお知恵ありませんかということで御相談を申し上げているところです。近々壱岐にもお見えになるということでございますので、何かしらいいお知恵があればなど期待をいたしておるところでございます。

御提言の人材育成、人材活用について、今後工夫を重ね、壱岐市の産業活性化、福祉の向上につなげていきたいと思っております。貴重な御提言をありがとうございました。

〔市長（白川 博一君） 降壇〕

○議長（町田 正一君） 以上をもって石田中学校の一般質問及び提言を終わります。お疲れさまでした。

〔山下 純門議員、山川 椋太議員、安永真里衣議員、川富 智希議員 一般質問席 降壇〕

日程第4. 発議第1号

○議長（町田 正一君） 次に、日程第4、発議第1号壱岐市子ども宣言の決議についてを議題とします。

提出議案の説明を求めます。13番、米田智愛議員。

〔提出議員（米田 智愛君） 登壇〕

○提出議員（13番 米田 智愛君） 発議第1号、平成26年8月12日、壱岐市議会議長町田正一様、提出者、壱岐市子ども議会議員米田智愛、賛成者、壱岐市子ども議会議員境ひとみ、寺田想、長嶋冨映。

壱岐市子ども宣言の決議について、上記の議案を別紙のとおり、会議規則第14条の規定により提出します。

壱岐市子ども宣言の決議

子ども議会の開催を機会に、壱岐市で生活をしている私たちは、少子高齢化をはじめ多くの課題を抱える現代社会の中、これからの壱岐市のことについて考えました。

壱岐市民が育って守ってきた伝統と文化、豊かな自然を守り、安心・安全で住みやすい、活気のあるまちづくりのために、ここに次のことを約束し、実行していくことを誓います。

- 1、明るく元気なあいさつを通して、地域のコミュニケーションを築きます。
- 2、自然を守り、住みよいまちづくりを進めるためにできることから始めます。
- 3、夢を持ち、将来地域に貢献できる気持ちを大切にします。

以上、宣言いたします。平成26年8月12日、長崎県壱岐市子ども議会。

○議長（町田 正一君） これから質疑を行います。質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（町田 正一君） 質疑がありませんので、これで質疑を終わります。

〔提出議員（米田 智愛君） 降壇〕

○議長（町田 正一君） お諮りします。本案については、会議規則第37条第2項の規定により委員会付託を省略したいと思います。御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（町田 正一君） 異議なしと認めます。よって、本案については委員会付託を省略することに決定しました。

これから討論を行います。討論ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（町田 正一君） 討論なしと認め、これで討論を終わります。

これから発議第1号を採決します。この採決は起立によって行います。本案は原案のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

〔賛成者起立〕

○議長（町田 正一君） 起立多数です。よって、発議第1号壱岐市子ども議会宣言の議決については原案のとおり可決されました。

以上で予定された議事は終了しましたが、この際、お諮りします。本会議において議決されました案件について、その条項、字句、数字、その他整理を要するものにつきましては、会議規則第43条の規定により、その整理を議長に委任されたいと思いますが、御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（町田 正一君） 後ほど、壱岐市議会と同じように、市議会の会議録、子ども議会の会議録は各学校宛てに送ります。よって、異議なしと認めます。よって、そのように取り計らうことに決定しました。

○議長（町田 正一君） 以上で本日の日程は終了いたしました。これをもちまして、平成26年
壱岐市子ども議会を閉会いたします。大変お疲れさまでした。

この後、教育長及び市長の挨拶がありますので、議員の皆様は自席にてそのまま座ってください。

○事務局長（桝崎 文雄君） ありがとうございます。

それでは、今回の子ども議会の講評を壱岐市教育長久保田良和様にお願いしたいと思います。
久保田教育長、よろしくお願ひいたします。

〔教育長（久保田良和君） 登壇〕

○教育長（久保田良和君） 皆さんの熱心な一般質問と提言の内容で、私の持ち時間がもう限られて
きました。簡潔に言わなければいけないことを残念に思いますが、あとは校長先生方にお伝え
をいたします。

ひとまず、1日議員としての役割が終わって、ほっとされているでしょう。生徒会役員に立候
補したときのあの緊張感とどちらが緊張されましたでしょうか。一つは、こういう言葉がありま
す。

事前にお出しいただいた質問と提言を通告と言います。そして、この通告を受けた私たち理事
者側は、そのことについて入念に調べをします。よって、今回出されたような詳しい資料等に基
づいた通告をしていただくと、理事者側もしっかり準備ができて、よりよい答弁ができるという
ことを、きょうはこの子ども議会がしっかり私たち市民に示してくれたと考えております。大事
なことでございます。

次に、冒頭、議長が申されましたように、この市議会の仕組みは、首長——普通、「くびちよ
う」と間違えないためによく読んだりします。そして、議員、議会、これが首長さんと壱岐市の
市議会というぐあいになって、この壱岐市を住みやすいために私たちはいろいろな知恵を相互に
力を発揮するわけです。

きょうは、皆さんはそういう意味では、1日議員としての貴重な体験をしていただきました。
そして、学校ではその体験を私たちは間接体験と言います。生徒会役員、専門部活動等しかりで
ございます。

きょうは、提言も含めて、先ほどの子ども会議の宣言文等の提案も含め、限りなくほかの議員
さんと同じような直接的な議員活動としての体験をすることをしていただきました。これを直接
体験と言います。人間は、大きくなるにしたがって直接に体験することで、心も体も頭も大きく
なって立派な社会人になります。どうぞ、25歳になったら立候補して、この議場に間接ではな
く直接体験に戻ってきてくれることを楽しみにしております。お疲れさまでした。

〔教育長（久保田良和君） 降壇〕

○事務局長（榊崎 文雄君） 次に、壱岐市長白川博一様に御挨拶をお願いいたしたいと思います。
白川市長、よろしく願いいたします。

〔市長（白川 博一君） 登壇〕

○市長（白川 博一君） 子ども議員の皆さん、本日は大変お疲れさまでした。今回の壱岐市子ども議会は、市内の各中学校から16名の皆さんが子ども議員として出席され、ただいま壱岐市をよくするための質問や提言を行っていただきました。

皆さん、今回の子ども議会はいかがでしたか。皆さんの将来に向けて、さまざまな質問や提言を行っていただきましたが、それらは全て壱岐市の明るい未来のために一生懸命に考えていただいた内容であり、私も非常に頼もしく思ったところであります。

皆さんの質問や提言は、地域の活性化や福祉施策など非常に大切なことです。しかし、これらを実現することは、1人の力では到底なし得ることはありません。議員皆様や市民皆様の御理解や御協力なくして実現することは難しいのです。また、そこに至るまでにはさまざまな意見をぶつけ合い、多くの議論を重ね、その結果、一つの道筋が生まれるものであります。

今回、皆さんは将来の壱岐市のための大いに議論をされました。このことが壱岐市を一層希望あふれる町にすることができるものと確信をしています。そして、今回の経験を大いに生かし、壱岐市の現在、そして将来に大いに関心を持っていただいて、それぞれの学校や地域で活躍され、将来、議員や市長として壱岐市の振興発展をリードされる人材が多く出られることを心から願うものであります。皆さんの若い力に期待いたしております。

また、本日傍聴いただきました皆様や関係者の皆様、そしてケーブルテレビをご覧いただきました皆様に厚くお礼を申し上げます。子どもたちのすばらしい質問や提言に頼もしく思われたものと思っております。今後とも、子供たちが心豊かでたくましく成長されるよう、市民皆様の御理解、御協力をお願い申し上げます。

さて、第69回がんばらんば国体が10月12日、今から2カ月後に迫ってまいりました。壱岐市では、自転車ロードレース、そして成年女子ソフトボールがございます。この2種目はもちろんのこと、がんばらんば国体の成功に向けて市民皆様とともに、この大会を盛り上げていただきたいと思っております。どうぞよろしく願いいたします。

本日出席された子ども議員の皆さんを初め、壱岐市の子供たちの健やかな成長と今後の活躍を祈念いたしまして、閉会の御挨拶とさせていただきます。本日はまことにありがとうございました。

〔市長（白川 博一君） 降壇〕

○事務局長（榊崎 文雄君） 次に、子ども議会議員を代表して、勝本中学校、中村遼太さんから

お礼の御挨拶がございます。中村さん、よろしく願いいたします。

〔議員（中村 遼太君） 登壇〕

○議員（中村 遼太君） きょうはお忙しい中、私たちの質問や提言に丁寧に回答していただき、ありがとうございました。

今回、この子ども議会という場に参加させていただいたことで、とても貴重な体験をすることができました。どうすればもっと壱岐がよくなるだろうかということを中心にみんなで意見を出し合っ
て考えましたが、いざやってみると難しく、たくさんの時間を使いました。議員の皆さん方は、
毎日壱岐を円滑に運営するために努力していらっしゃるんだなということをととても強く感じまし
た。学校の勉強とは違った地域のことを深く考える勉強ができ、感謝の気持ちでいっぱいです。
ふるさとの今、そして将来について考え、発言する機会を与えていただいたことで、これまで遠
い存在のように思えた政治のことを身近なものなんだと見詰め直す機会となりました。この経験
を生かし、将来のまちづくりに協力していきたいと思います。本当にありがとうございました。

（拍手）

〔議員（中村 遼太君） 降壇〕

○事務局長（榊崎 文雄君） ありがとうございました。

以上をもちまして、平成26年壱岐市子ども議会の全日程を終了いたします。本日は本当にあ
りがとうございました。大変お疲れさんでございました。

午前11時15分閉会

地方自治法第123条第2項の規定により、署名する。

平成 年 月 日

議 長 町田 正一

署名議員 濱田 誠

署名議員 豊島 圭裕